

特定健康診査時に尿ナトカリ計で3年連続測定した尿ナトリウム/ カリウム比の変化と血圧への影響

Change in Na/K ratio and Casual Blood Pressure, Finding from Consecutive 3-year Health Check-up Data in Tome City

寶澤 篤

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

【目的】 演者らは尿ナトカリ比測定を登米市の特定健康診査（特定健診）に2年間導入した結果、尿ナトカリ比の低下はBMI・飲酒量の変化と独立して収縮期血圧（SBP）の低下と関連したことを報告した。本研究では尿ナトカリ比測定を延長した登米市での3年間の尿ナトカリ比や血圧の経年変化を検討した。

【方法】 宮城県登米市では2017～2019年度特定健診受診者全員に尿ナトカリ計（OMRON, HEU-001F）を用いて尿ナトカリ比を3年連続で測定した。3年分の尿ナトカリ比と特定健診情報が得られた11,268人を対象とし、尿ナトカリ比やSBPの経年比較、尿ナトカリ比の変化がSBPの変化と関連するかにつきSBPの変化を目的変数とした重回帰分析を行った。年齢、性別、BMI・飲酒量の変化で調整した。

【結果】 平均年齢は65.5歳、尿ナトカリ比の測定実施率は99.9%だった。尿ナトカリ比、SBPの平均値±標準偏差は1年目：5.4±3.0、132.0±17.7mmHg、2年目：4.9±2.2、130.8±17.2mmHg、3年目：5.0±2.5、129.6±17.1mmHgと、初年度と比し3年目で尿ナトカリ比とSBPが有意に低下した。尿ナトカリ比低下はBMIや飲酒量の変化と独立してSBPの変化と有意な正の関連を示した（回帰係数=0.37, $p<0.01$ ）。

【結論】 尿ナトカリ比測定を3年間導入した登米市において尿ナトカリ比の低下はBMI・飲酒量の変化と独立してSBPの低下と関連した。地域での尿ナトカリ比測定が住民全体の血圧に好影響を与える可能性が改めて示された。